

すべての人に心豊かな空の旅を

パラリンピックアスリートに 安心な空の旅を

今月開催の北京2022冬季オリンピックに続き、来月は北京2022パラリンピック冬季競技大会が開催されます。昨年の東京2020パラリンピックで、JALグループは競技用車いす（レーサー）を輸送する専用運搬ケースの製作に取り組みました。

レーサーは通常、カーボンなどの超軽量素材で造られ、精密で繊細。衝撃に弱いため、輸送にあたっては細心の注意が必要です。

2020年にJAL岡山支店の整備士から始まった専用運搬ケースの製作は、2021年に日本トランスオーシャン航空（JTA）の整備士に引き継がれ、車いすマラソンの喜納翼選手にも「安心して移動でき、集中して競技に臨めた」と喜んでいただきました。

レーサーケース「Gifted」は、幅約190cm、高さ約70cm。レーサーをそのまますっぽりと収納できます。プラグと呼ばれる軽量の堅牢な素材を組み合わせ、要所にはクッションを配置

JTAの『さくらジンベエ』ジェットと、お揃いの装飾を施したレーサー専用運搬ケース『Gifted』。

するなど工夫が凝らされたケースは、外装もJTAらしい遊び心で彩られました。現在、那覇空港発着の国内路線を中心に活躍しています。

「コロナ禍でも挑戦し続けるアスリートの皆さまを応援したいという気持ちで形になりました」と、ケースの製作に携わったJTA技術部の瀧澤健志は話します。

アクセスしやすい空港や機内

JALグループはこうしたアスリートの応援だけでなく、さまざまな個性のあるすべてのお客さまに、安心して快適な空の旅をお楽しみいただけるよう、アクセスビリティの向上に取り組んでいます。

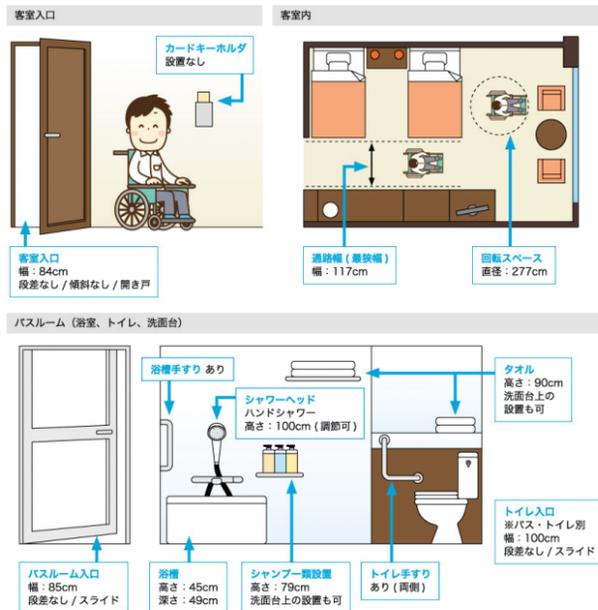
2020年からは、お手伝いを希望されるお客さま専用の『スペシャルアシスタンス』カウンターの全面リニューアルを開始。あなたにも使いやすいレイアウトや動線を検討し、入り口扉なども撤廃しています。このリニューアルは羽田・成田・新千歳・伊丹・福

今回のテーマに該当する目標



1. ホテル日航アリビラ専用のオプションプラン、チェアポート（水陸両用車いす）。「初めて海の中に入ることができました」と会心の笑みを見せるJALサンライトの木下絵理。車いす利用者の目線でツアーの調査に当たった。2. 沖縄美ら海水族館の車いす優先スペースにて。3. 東京国際空港（羽田）のスペシャルアシスタンスカウンター。4. 競技用車いす（レーサー）。

ホテルごとにバリア情報をイラスト化してわかりやすく。



旅をもっと身近に

岡・那覇空港で完了しています。

機内の一部では、点字や拡大文字、音声でご案内できるサービスマンガイドの搭載を開始。ご高齢の方や視覚に障がいのある方にも機内サービスをわかりやすくお伝えしています。

機内エンターテインメントサービスでは、聴覚や視覚に障がいのあるお客さまにも楽しんでいただけるようなコンテンツをご用意しています。

「空港や機内だけでなく、ご旅行先でも安心してお楽しみいただける『車いすで行く沖縄』の個人ツアーも販売を開始しました」と語るのは、JALグループのアクセシビリティに関する取り組みを企画する大竹朋。

「ツアーの特徴の一つは、沖縄の魅力を満喫できる安全・安心なマリナーアクティビティのオプションプランです。旅の楽しさ・豊かさを感じていただけると思います」（大竹）

JALグループはこれまでも多くの

アクセシブルツアーを企画実施してきましたが、決まった日程での団体型ツアーで、自由度は限られていました。「今回は3月までと期間を長くとり、お客さまのご都合やお好みにあわせて日程や宿泊先をお選びいただけることになりました。車いすを利用することになりました。車いすを利用することになりました。車いすを利用することになりました。」

「今後は沖縄以外の方面への展開に加え、よりさまざまなお客さまの特性にあわせたツアーも検討していきたいです」と意気込みを語る大竹。

JALグループはこれからも、誰もが旅を通じて、より豊かな人生を楽しむ社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めてまいります。

車いすで行く 沖縄 3・4日間

お客さまが“選べる”ことこだわった沖縄ツアーが登場！日程、15の宿泊施設のほか、現地移動手段やマリナーアクティビティなどのオプションプランも多数ご用意しています。

～2022年3月28日
申込〆切：3月7日



ご予約はこちら



動画でもこの取り組みの詳細をごいただけます



2015年9月、全国連加盟国（193カ国）により「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

